

飛鳥資料館の研究展示・特別展示

飛鳥資料館

研究展示 「飛鳥時代の埋蔵文化財に関する一考察」 最近にあった埋蔵文化財の盗掘など文化財盗難事件に関わる遺物を展示したものである。盗難にあった遺物を展示したことは、これまでに例がない。遺物は、周知な発掘調査による出土データが揃っていてこそ、その一つ一つが歴史を復原する重要な資料となりうる。したがって、このような方法で展示することには問題があるが、遺物の重要性はそれを補ってあまりあるもので、研究資料としてこれらを役立てるために、あえてこの展示を企画した。通常、このような事件の遺物は、調査事務所や、博物館の収蔵庫の片隅におかれたままになってしまうことが多い。

遺物は川原寺、穴太廃寺、海会寺など、近畿、東海、山陽の47遺跡、約2,000点に及び、これらのうち塑像、埴仏、軒瓦、土器などの主要遺物300点あまりを展示した。

特別展示 「飛鳥の源流」 1985年、飛鳥保存財団と共催で「日本と韓国の塑像」展を企画し、好評を博した。今回は、資料館15周年・財団20周年の記念展として、再び韓国側の協力を得て、飛鳥文化を検証する展覧会を企画したものである。

7世紀の両国の出土品と一緒に展示し、特に百済文化の飛鳥への伝播と交流が一目でわかる展示をめざした。特に、最近めざましく進展している日・韓両国の発掘調査による宮殿、寺院、古墳などの遺構・遺物の比較によって、両国の深いつながりを示した。また、扶余陵山里壁画古墳石室の実大模型、益山弥勒寺の石人像模造を作成し、飛鳥高松塚古墳、猿石と比較できるようにした。この他に便器（韓国扶余）と糞ペラ（鴻臚館）は、古代人の生活に密着した異色の展示品として観覧者の目をひいた。

国立中央博物館、ソウル大学校博物館をはじめとして、韓国各地の博物館から最新の発掘遺物を借用して展示することができたのは幸いであった。

(千田剛道)

研究展示・軒平瓦（慈光寺）

特別展示・男性用便器（扶余軍守里）